

第5期クラウドコンピューティング研究会

第1回研究会を開催いたしました

2013年6月18日(火) 14:00~18:30
会場: 日本能率協会ビル 3階「204」研修室



コーディネーター
株式会社インプレスビジネスメディア
IT Leaders 編集長 田口 潤 氏

1. 委員長挨拶・基調講演 14:00~14:20
- 2.



株式会社 NTTPC コミュニケーションズ
代表取締役 社長 前沢 孝夫 氏

3. 講演 ① 14:20~15:10

「OpenStack の動向 ～概略、アーキテクチャ、事例、そしてロードマップ～」



日本ヒューレット・パッカード株式会社
プリセールス統括本部 ソリューションセンター クラウドソリューション部 担当部長
真壁 徹 氏
(日本 OpenStack ユーザー会 ボードメンバー)

----- 休憩 15:10~15:20 -----

4. 講演 ② 15:20~16:10

「JT プライベートクラウド環境の運用管理保守
～クラウドベンダーとの協業関係～」



日本たばこ産業株式会社
IT 部 主任
鳥居 亮弘 氏

5. Buzz Session(討議と質疑応答) 16:10~16:50
6. 委員長講評 16:50~17:00

株式会社 NTTPC コミュニケーションズ
代表取締役 社長 前沢 孝夫

7. 情報交歓会 17:00~18:30 (地下1階「すずらん」)

【事務局所感】

一前沢委員長基調講演

本研究会も第5期となった。クラウドという言葉が表す広い範囲から個別領域の世界へ注目度は遷移している。あらゆるものがサービス化していく傾向は更に強くなり (XaaS: X は何かを意味し、それがサービス化することを表すキーワード)、企業は新しい技術・アーキテクチャに対応しなければならないし、社内のマインドを大きく変えて行かなければならない。IT環境がクラウドベースになることで、企業はよりいっそうヘテロな環境でのマネジメントが要求される。

一OpenStack 概要

HP 真壁氏 (日本 OpenStack ユーザー会

ボードメンバー) より、OpenStack の全体概要について解説。「クラウド」は 2012 年に興味の減少を感じたが、2013 年になって注目度が上がっている。OpenStack はビッグデータの処理基盤として注目されている。

そもそもの成り立ち、特性、メリット・デメリットについての解説があり、改めて HP 社としての取り組みについても解説された。

一JT プライベートクラウド環境の運用管理保守

JT 鳥居氏よりプライベートクラウド環境の運用・維持管理について、クラウドベンダーとの立場・役割関係、契約、ユーザーとの SLA や、様々なプロジェクトを進める手順等など、現に事業を維持するシステムを、いかに品質よく運用管理するかについて詳細に解説された。

一参加者からの質問

- ・ OpenStack のユーザーの想定について - プロバイダー先行で展開
- ・ HP 社の OpenStack 提供形態について - 現在は HW とセットだがサポート付きソフト提供を目指す
- ・ JT 殿が行なっている災害対策訓練について - 机上・活動・総合の 3 レベルでの訓練
- ・ JT 殿がベンダーと協業で運用している背景について - アプリ/ハードのライフサイクル分離
- ・ JT 殿は OpenStack をどう見るか - 複数クラウドを総合的に管理できるようになると良い